

2020年度 一般社団法人 CIEC 定時社員総会

議 案 書

2020年 8 月 19 日(水)
大学生協杉並会館
(〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22)

【2020 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 議案】

第 1 号議案:2019 年度事業報告と 2020 年度事業計画承認の件.....	1
第 2 号議案:2019 年度決算報告承認の件	
・財政報告.....	4
・貸借対照表	6
・損益計算書	7
・計算書類の注記表.....	8
・附属明細書	9
・監査報告書	10
第 3 号議案:2019 年度収支差額処分承認の件.....	11
第 4 号議案:2020 年度予算承認の件	12
第 5 号議案:CIEC 役員選挙実施の件.....	15

【資料】

資料 1. 2019 年度活動報告と 2020 年度活動方針	16
・専門委員会	
・部会	
・支部	
資料 2. CIEC 活動報告	25

2020年度一般社団法人CIEC定時社員総会議案書

議案1. 2019年度事業報告と2020年度事業計画承認の件

1996年7月に設立されたCIECは、2013年6月から一般社団法人CIECとして、設立以来の目的を引き継ぎながらこの7年間活動してきました。本議案では、2019年度の事業報告と2020年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会等の活動報告は、それぞれの委員会や部会報告等にゆだね、ここでは全体に関わる2019年度の取り組みの要点と2020年度事業方針について記します。

1. 学び、教育の革新をすすめる社会づくりへの発信

CIECは1996年7月にコンピュータ利用教育協議会として設立され、2013年6月に一般社団法人CIECとなり、教育と学びにおけるコンピュータおよびネットワークの利用のあり方等を研究し、その成果を広く普及するとともに交流する活動を続けてまいりました。

最近の学校教育を取り巻く状況として、学習指導要領の改訂、高大接続の改革と大きく変化しようとしておりましたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大により、社会全体として、築いてきた様々な仕組みや制度の本質が問われ、当然と考えている習慣やルールを取捨選択しながらのバージョンアップを加速させることが緊急の課題となってきました。Society5.0の社会への取り組みの中でも、遠隔授業、テレワーク、オンライン診療等、サイバー空間の活用は一気に加速しました。

多くの大学で行われている遠隔授業は、双方向での質疑応答や意見の機会も確保しながら展開されており、初等・中等教育の現場においてもいくつかの学校ではオンライン授業が実施されています。CIECでは、すでに、昨年の2019PCカンファレンス(甲南大学)において、基調講演1、基調講演2、シンポジウム1では、Zoomによる双方向コミュニケーションを実現しており、さらに、2020年3月の春季カンファレンスの分科会発表をすべてオンラインで行いました。

CIECは、長年取り組んできたICTを活用した学びから得られた成果を社会に発信していくとともに、新しい情報技術とコミュニケーションの在り方を問い続けながら、さらに発展させていく時期に来ていると考えられます。そこで本年度は、委員会、部会、支部の連携を強化し、活動を活発化させることで、ICTを活用した学びに関わる情報交換・情報発信の場としてのCIECの魅力をアピールするとともに、会員の皆様に広くご意見、ご提案を求め、今後のCIECのあるべき姿について検討するワーキンググループを設置し、中期計画の策定を目指します。

2. PCカンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2019PCカンファレンス」は、2019年8月6日、7日、8日に甲南大学で全国大学生生活協同組合連合会との共催のもと、760名の参加で開催されました。全体テーマは、2020年東京オリンピックを控え、盛り上がりつつあるトピックとして、スポーツに着目し、「挑む ぶつかる 乗り越える」としました。科学的な根拠に基づいたスポーツによる挑戦は、先端技術や教育ビッグデータを効果的に活用した学びの在り方に対し、新たな示唆を与えるものとなりました。

プレカンファレンス「プログラミング教育必修化のグランドデザインー小学校から中高大へバトンはどう渡すかー」に続き、基調講演1「変動するスポーツ現場ー自分自身の経験をもとにー」、基調講演2「スポーツデータサイエンスースポーツにおけるデータ活用とその発展ー」、シンポジウム1「スポーツと教育とデータサイエンス」を行いました。また、学生の学び方の変革を問うシンポジウム2「学生の質の高い学びを支援する教育の近未来」を開催しました。分科会では、111本(口頭81本、ポスター30本)の発表がありました。

「2020PCカンファレンス(同志社大学京田辺キャンパス)」は、COVID-19感染拡大を防ぎ皆様の安全を考慮し全面オンラインに移行し、8月18日、19日、20日に行います。全体テーマは、「産学共同

で切り開くこれからの教育・学習」です。今回のテーマは、未来を担う人づくりのためにはこれまでにない産業界と大学等学校が協力・共同して、新たな教育プログラムや教材、学習環境を開発・提供することが求められることから設定されたものです。

同志社大学では、多くの寄付講座が開設されていますが、2020年度から高等教育研究院に設置される研究科横断型の副専攻プログラム（Comm 5.0 AI-データサイエンス副専攻）において、企業との共同研究を通じた大学院生の実践的な教育の試みも開始されようとしています。先進的な産学連携の取り組みを行っている事例を紹介していただきながら、より本質的な産学共同による研究・教育について考える機会になると期待できます。

3. みんなが参加できる、成果を共有できる、専門委員会／部会／支部の活動の広がり

専門委員会は、研究委員会、会誌編集委員会、広報・ウェブ委員会、国際活動委員会の4つが理事会のもとに置かれています。研究委員会は、自ら CIEC 研究会の企画実施を担当するとともに、各部会等が開催する研究会の調整・管理を行います。

研究委員会は、各研究会の企画、調整・管理を行っておりますが、今年度は、会員の研究交流や相互研鑽の促進に資することを目的として10年間開催してきた「CIEC 春季研究会」を、「CIEC 春季カンファレンス」と名称を改め、より拡充した研究大会として実施し、「CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol.11」を刊行しました。査読論文・ポスター発表の採録決定直後に、COVID-19 感染拡大・休校要請が示されたことにより現地開催の中止を余儀なくされ、急遽、全面的に双方向の質疑応答が可能なオンライン分科会で実施しました。

会誌編集委員会は、会誌『コンピュータ&エデュケーション』の編集を担当し47号と48号を刊行しました。また、会誌編集に関わる作業の情報化を進め、会誌編集の進捗管理をオンラインで行う投稿・査読システムを導入するとともに、「CIEC 会誌投稿規定」および「執筆要項」の一部を改正致しました。

広報・ウェブ委員会は CIEC の広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会長インタビューの重視、学会案内リーフレットの刷新、公式 SNS の運用強化を重点に活動し、会員への情報提供、社会への発信等を強めました。

国際活動委員会は、国際活動の企画・運営を担当し、研究会の開催等を通じて引き続き情報提供をすすめております。昨今、中国の存在感が、国際学力調査の結果や研究面でも高まっていることから、教育の実態の把握、現地の教員や研究者の意見交流のため東北師範大学附属中学東山分校を視察する予定でしたが、COVID-19 感染拡大を受け、視察を中止しております。

部会は、会員の自発的な組織として始まり、小中高部会、2018年度より新たに誕生したオープン・エデュケーション部会、生協職員部会が研究活動を展開しています。

小中高部会は関東、関西、北海道の3地区に拠点を拡大して活動をすすめる、PC カンファレンスでセミナーを企画開催するとともに、CIEC 研究会を2回実施しました。

オープン・エデュケーション部会は、小中高部会と共催の研究会の他、独自企画の CIEC 研究会を実施しました。

生協職員部会は、学生の大学生協の場を通じた学びに焦点を当て PC カンファレンスでセミナーを企画開催しました。

支部は CIEC の地域組織で、各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。現在、支部は北海道と九州の2つが活動しております。

北海道支部では、10月に PC カンファレンス北海道（酪農学園大学）を開催しました。2020年度の PC カンファレンス北海道は、その形態、期日、会場等未定ですが、開催を予定しております。

九州支部では、九州 PC カンファレンス（佐賀大学）を開催しました。2020年度は、COVID-19 感染拡大への対応のため、九州 PC カンファレンスの現地開催は中止しますが、オンラインによる交流の多様化を模索します。

4. 個人会員の拡充を図り、団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度725名(2020年4月)となりました。個人会員が1000名規模に達するよう、引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに、PCカンファレンスや研究会等への未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また、団体会員は77団体(2020年4月)であり、関係の強化については、今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設等、団体会員とのコラボレーションを追求します。

5. 広報、出版活動と「学会情報」の公開、発信にむけて

第46号から、投稿される論文等の多様化と質向上を図るために、投稿区分を「研究論文」「実践論文」および「研究ノート」「実践報告」に再編しましたが、論文投稿も安定的に集まっております。会誌編集の進捗管理をオンラインで行う投稿審査システムを導入し、査読も確実に運営され、年2回の会誌発行を順調にすすめております。最新号を除く会誌は、J-STAGEで公開されており、最新号も発行の6か月後には公開されます。

また、Facebook、TwitterのCIEC公式SNSでの情報発信を強化し、CIECホームページの内容も随時更新し、ニューズレターの他、各委員会、部会、支部からの情報発信が容易になっています。

さらに、CIECについて社会に発信すること、多様な会員の研究・実践の広がりが見える化等のために、昨年度より開始した会長発信企画は、2ヶ月に1本程度、5本の掲載を行い、その一部は、YouTubeのCIEC公式チャンネル（一般社団法人CIEC）において、動画配信を行っています。

6. 財政基盤の確立、事務局体制と役員選挙のあり方

近年、団体会員の退会が続いており、一般会員数も頭打ちの状態となっておりますが、特にCOVID-19感染拡大の影響による企業等の大幅な減収減益は、団体会員の動向にも、大きな影響を及ぼしつつあります。非常に困難な局面ではありますが、引き続き、更なる収入増対策を検討する必要があります。

教育に関心のあるさまざまな個人や団体、企業に会員になってもらい、CIECの場を通じて学び、交流することで、個人会員、団体会員の拡大、政府や企業等との共同研究の推進等で収入増対策をすすめるとともに、経費対策をすすめます。

また、終身会員制度について、メンバーコメントの手続きを経て、永年会員への感謝と、学会活動への参加継続のため、終身会員制度の導入することになりました。

社員総会、役員選挙については引き続き電子投票制度を利用することにより経費削減を図り、CIECの活動収支については厳密な運用管理と定期の会計報告と監査を受け、経費の透明性を確保し、税務当局への報告も明確にしています。

日常的なCIEC活動をすすめるために事務局は、副会長の中から事務局長を選出し、多くの事務を担当しました。2020年度においても引き続き、メールによるコミュニケーションから、Slackなどの新しいコミュニケーションツールの活用をすすめ、法人としての効率的な事務局活動を進めます。

CIEC2019 年度財政報告

〔概況〕

2019 年度決算は 701,680 円の黒字となりました。理事会を PCC 実行委員会と同時開催し、諸会議もオンライン会議での開催が増加し、会議費が減少しました。また 3 月以降に予定されていた企画が中止されたことにより、支部活動援助金および部会活動援助金が予算を大きく下回りました。会誌オンライン投稿システムの初期費用、CIEC リーフレットの印刷費用、春季カンファレンス論文集の印刷費用は予算比を上回りました。

(文中の金額は原則として 1 万円未満切り捨て、詳しくは損益計算書をご覧ください)

〔経常損益の部〕

I. 〔経常収益〕

1. 会費収益 1,130 万円／予算 1,210 万円

- ・個人会員会費収入は 408 万円で予算対比 31 万円の減 (-7.2%)、団体会員会費収入は 722 万円で予算対比 48 万円の減 (-6.2%) となりました。

<会員状況>	2019 年 4 月 1 日	2020 年 3 月 31 日	2020 年 4 月 1 日
個人会員	745	785	725
団体会員	82	83	77

2. 財務収益 893 円／予算 2 千円

- ・受取利息 893 円

II. 〔経常費用〕

1. 事業費用 659 万円／予算 809 万円

(1) 会議費用 92 万円／予算 165 万円

- ・オンライン会議の開催で交通費が減少しました。

(2) 会誌発行費用 350 万円／予算 341 万円

- ・Vol. 47, Vol. 48 を発行しました。査読システム導入による費用が増加しました。

(3) 広報費用 38 万円／予算 30 万円

- ・CIEC 紹介リーフレットのデザイン料、印刷費用を支出しました。
- ・CIEC ウェブサイトの会長インタビュー、Special 記事の費用を支出しました。

(4) 研究会費用 77 万円／予算 60 万円

- ・春季カンファレンス及び第 121 回、122 回研究会を開催しました。
- ・春季カンファレンスでは CIEC 研究会論文集を発行しました。発行費用は 40 万円に対し、主に参加者が購入する報告集販売収入が 8 万円で、差額 32 万円は CIEC 負担となっております。

(5) 調査費 5 万円／予算 5 万円

- ・北海道支部により教科「情報」の調査が行われ、その結果は PCC 北海道で発表されたほか、協力各大学で有効活用されています。

(6) 事業活動費用 6 万円／予算 27 万円

- ・電子証明書費用です。

- ・3 役会議は今期，理事会や PC カンファレンス実行委員会とあわせて開催したため費用発生しておりません。

(7) 支部活動援助金 48 万円／予算 61 万円

- ・北海道支部 25 万円，九州支部 23 万円の実績です。支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されています。

(8) 部会活動援助金 33 万円／予算 110 万円

- ・小中高部会 7 万円，生協職員部会 5 万円、オープン・エデュケーション研究部会 20 万円の実績です。3 部会からは部会交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(9) 学会表彰事業費 6 万円／予算 10 万円

- ・2019 年度は学会賞 2 件の実績です。

2. 管理費用 400 万円／予算 431 万円

(1) ネットワーク運営費 3 万円／予算 15 万円

- ・保守管理業者委託費，サーバー更新料，ドメイン名登録更新料(お名前.COM/日本レジストリーサービス)の費用です。

(2) 事務局通信費 23 万円／予算 25 万円

(3) 事務局業務委託費 300 万円／予算 300 万円

(4) 事務用品費 47 万円／予算 38 万円

(5) 備品購入費 0 円／予算 10 万円

(6) 管理委託費 3 万円／予算 20 万円

- ・登記費用、会計システム費用です。

(7) 雑費 22 万円／予算 22 万円

- ・個人情報取扱事業者保険料，書籍 JAN コード更新料，振込や自動引き落としなどの各種手数料が主です。

(8) 予備費 0 円／予算 1 万円

(9) 租税公課 0 円／予算 2 千円

〔経常外損益の部〕

III. 〔経常外収益〕

- ・雑収入 7 千円／予算 0 円
会誌売上です。

IV. 〔法人税等〕

7 万円／予算 7 万円

- ・法人住民税 7 万円を納めました。

V. 〔当期利益金〕

7 万円の赤字予算に対し 63 万円の黒字となりました。

以上

計 算 書 類

第 1 貸借対照表

貸 借 対 照 表

2020年6月30日現在

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	18,782,509	流動負債	6,099,278
現金及び預金	18,725,444	未払金	95,278
未収金	57,065	前受金	5,832,000
		預り金	172,000
		負債合計	6,099,278
		(純資産の部)	
		その他	12,683,231
		正味財産	12,683,231
		繰越利益剰余金	12,683,231
		純資産合計	12,683,231
資産合計	18,782,509	負債・純資産合計	18,782,509

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型
(改訂版)」(2015年5月7日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

第2 損益計算書

損 益 計 算 書

(自2019年7月1日 至2020年6月30日)

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,083,000	
2) 団体会員会費収入	7,220,000	
	11,303,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	893	
	893	11,303,893
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	922,832	
2) 会誌発行費用	3,501,231	
3) 広報費用	389,436	
4) 研究会費用	776,110	
5) 調査費用	50,000	
6) 事業活動費用	65,767	
7) 支部活動援助金	487,907	
8) 部会活動援助金	339,741	
9) 学会表彰事業費用	60,000	
	6,593,024	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	36,821	
2) 事務局通信費	230,165	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	475,364	
5) 管理委託費	37,050	
6) 雑費	229,789	
	4,009,189	10,602,213
経常利益		701,680
(経常外損益の部)		
III 経常外収益		
1 雑収入	7,704	7,704
IV 税引前当期純利益		709,384
V 法人税等	70,000	70,000
VI 当期純利益		639,384

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型(改訂版)」(2015年5月7日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

第3 計算書類の注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

②資産の評価基準及び評価方法

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

2. 損益計算書に関する注記

(1) 法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

3. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかなっています。

未収金は、回収期間は1年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、1ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2020年6月30日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定方法については(注1)を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位：円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
①現金預金	18,725,444	18,725,444	-
資産計	18,725,444	18,725,444	-
③前受金	5,832,000	5,832,000	-
負債計	5,832,000	5,832,000	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

①現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

②前受金

前受金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

附属明細書（計算書類関係）

主な資産および負債の明細

(1) 現金預金 (単位：円)

内 訳	金 額
現金	1,507,503
当座預金 ゆうちょ銀行	2,576,010
普通預金 りそな銀行	2,523,068
普通預金 中央労働金庫	2,118,863
定期預金 中央労働金庫	10,000,000
合 計	18,725,444

(2) 前受金

内 訳	金 額
次年度個人会員会費	2,802,000
次年度団体会員会費	3,030,000
合 計	5,832,000

2020年7月19日

監査報告

一般社団法人 CIEC（コンピューター利用教育学会）

監事 板倉 隆夫

監事 宿久 洋

監事 柳田 章



第7期事業年度（2019年7月1日～2020年6月30日）の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務の執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、各監事は調査を行い、監査を実施しました。

具体的には、理事会に出席し、会計帳簿、会計書類、理事会議事録等を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について報告を受け、また、随時説明を求めました。

2. 監査の結果

- 1) 事業報告は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- 2) 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 3) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産および損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

3. 追記情報

ありません。

以上

2019年度利益金処分案

I 当期末処分利益金	<u>12,683,231 円</u>
II 次年度繰越利益金	<u>12,683,231 円</u>

上記のとおり、2019年度利益金は次年度へ繰り越すことを提案いたします。

一般社団法人 C I E C（コンピュータ利用教育学会）

会 長 理 事 若 林 靖 永

2020年度予算計画

I. [経常収益について] 1,160万円

1. 会費収益 総額 1,160万円

- ・個人会員会費収入は430万円の計画とし、会員の新規加入を促進しますが、PCカンファレンス会場での新規加入者分減少を見込んでいます。
- ・団体会員会費収入は大学生協事業連合組織の合併による会員数の影響がありますが、団体会員の新規加入を推進し、730万円の計画としています。

2. 財務収益

- ・受取利息で2千円を計上します。

II. [経常費用について] 1,340万円

1. 事業費用 総額 886万円

1) 会議費用 135万円

- ・総会費用は、20万円を計上します。
- ・理事会は、8月、12月、3月、6月の4回分をオンラインでの出席を前提とし、2019年の半額の30万円を計上しています。
- ・広報・ウェブ委員会はオンライン会議を前提とし、10万円を計上します。引き続き各委員会、部会、支部のWEB担当者の会議参加を呼びかけます。
- ・研究委員会は20万円を計上します。
- ・国際活動委員会は10万円を計上します。
- ・会誌編集委員会は10月、3月開催の2回分30万円を計上します。
- ・Zoomアカウント購入費用として15万円計上します。

2) 会誌発行費用 280万円

- ・12月の49号、6月の50号発行費用として280万円を計上します。(取材・送料込)。
- ・JSTAGEへの投稿デジタルデータ作成費用5万円を計上します。
- ・オンライン投稿システム費用として30万円計上します。内訳は129,600円(年間サポート料)＋160,000円(利用料@4,000円×40本程度)です。

3) 広報費用 28万円

- ・CIECチラシ増刷費用として8万円を計上します。
- ・2019年度活動紹介のパネル作成費用として4万円を計上します。
- ・HP構築運用費として16万円を計上します。

4) 研究会費用 総額では70万円

- ・研究会費用を60万円計上します。
- ・研究会報告集費用は10万円を計上します。

5) 調査費用 5万円

- ・北海道支部の教科「情報」調査のための費用を5万円計上します。

6) 事業活動費用 27万円

- ・三役会議は、15万円計上します。通常の3役会議は理事会、PCC実行委員会と同日開催にし、臨時開催1回を計上します。
- ・諸会費等は、2万円を計上します。
- ・事業委託費は10万円を計上します。

7) 支部活動援助金 61 万円

- ・支部活動を保障する予算を 61 万円計上します。北海道支部 25 万円、九州支部 36 万円です。支部では地域を単位とした事業（地域 PCC、研究会など）を展開し CIEC 会員の参加の「場」を広げます。

8) 部会活動援助金 97 万円

- ・部会規約に基づき、定めた基準を満たす部会への援助金を 97 万円計上します。小中高部会 60 万円、オープン・エデュケーション部会 30 万円、生協職員部会 7 万円です。

9) 学会表彰事業費用 3 万円

10) 教育出版費用 0 万円

- ・以前抜き刷り費用を別に計上しておりましたが現在は受取金額と相殺のため計上しません。

11) 周年事業費用 0 万円

- ・今期は計上いたしません。

12) オンライン特別支援金 180 万円

- ・PCカンファレンスオンライン開催のための支援金を計上します。

2. 管理費用 総額 454 万円

1) ネットワーク運営費 15 万円

- ・サーバ更新料など。

2) 事務局通信費 25 万円

3) 事務局業務委託費 300 万円

4) 事務用品費 38 万円

5) 備品購入費 30 万円

6) 管理委託費 20 万円

- ・法人会計の税務顧問料およびシステム運用費用として 20 万円を計上します。

7) 雑費 25 万円

- ・振込、自動引き落とし、各種発行手数料などの費用として 22 万円を計上します。

8) 予備費 1 万円

9) 租税公課 2 千円

以上

一般社団法人CIEC2020年度予算案

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,300,000	
2) 団体会員会費収入	7,300,000	
	11,600,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	2,000	
	2,000	11,602,000
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	1,350,000	
2) 会誌発行費用	2,800,000	
3) 広報費用	280,000	
4) 研究会費用	700,000	
5) 調査費用	50,000	
6) 事業活動費用	270,000	
7) 支部活動援助金	610,000	
8) 部会活動援助金	970,000	
9) 学会表彰事業費用	30,000	
10) 教育出版費用	0	
11) 周年事業費用	0	
12) オンライン特別支援金	1,800,000	
	8,860,000	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	150,000	
2) 事務局通信費	250,000	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	380,000	
5) 備品購入費	300,000	
6) 管理委託費	200,000	
7) 雑費	250,000	
8) 予備費	10,000	
9) 租税公課	2,000	
	4,542,000	13,402,000
3 財務費用	0	
1) 支払利息	0	
経常損失金		-1,800,000

CIEC 役員選挙実施の件

CIEC 役員選挙規約に基づき 2020 年度・2021 年度（2020 年度社員総会から 2022 年度社員総会まで）の役員選挙を実施しました。結果を選挙管理委員会から報告します。

個人会員の理事

団体会員の理事

監事

資料 1：専門委員会、部会、支部 2019 年度活動報告と 2020 年度活動方針

※敬称略にて作成しています。

会誌編集委員会

1. 2019 年度活動報告

(1) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」47 号（2019.12.1）を発行しました。

- ・ INTERVIEW 「次世代音声自動翻訳への新たな挑戦」
中村哲さん（奈良先端科学技術大学院大学・教授）に聞く／横川博一編集長
- ・ 特集「統計研究における統計的手法の有効活用」：4 本／特集担当編集委員：寺尾敦委員
- ・ 2019PC カンファレンス報告「挑む ぶつかる 乗り越える」
- ・ 研究論文 2 本／実践論文 2 本／研究ノート 1 本／実践報告 1 本／本の紹介

※新しいカテゴリーでの投稿もはじまり、本号も多くの投稿をいただきました。特集を除く一般投稿は 16 本で採択されたものは 6 本、採択率は 38%でした。

(2) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」48 号（2020.6.1）を発行しました。

- ・ INTERVIEW：「株式会社編集工学研究所」
橋本英人さん・佐々木千佳さん（編集工学研究所）に聞く／横川博一委員長、武沢護委員
- ・ 特集「未来の図書館 教育の未来」：5 本／特集担当編集委員：武沢護委員
- ・ 研究論文 2 本／実践論文 7 本／実践報告 1 本／ソフトウェアレビュー 2 本／本の紹介

※特集を除く一般投稿は 13 本で採択されたものは 10 本、採択率は 77%でした。

(3) 会誌編集委員会を、以下の日程（会場）で開催しました。

第 77 回：2019 年 8 月 6 日（甲南大学）

第 78 回：2019 年 11 月 10 日（杉並大学生協会館）

第 79 回：2020 年 4 月 5 日（WEB 会議システムによる遠隔会議）

(4) 2019PC カンファレンスで会誌編集委員会企画セミナー「CIEC 会誌『コンピュータ&エデュケーション』に採択されるために－新しい投稿カテゴリーが期待するもの－」パネリスト：横川博一（神戸大学）、武沢護（早稲田大学大学院・高等学院）、村上正行（大阪大学）、寺尾敦（青山学院大学）を開催しました。

(5) 以前から導入を検討してまいりましたオンライン投稿・査読システム Editorial Manager の導入決定を受けて、2019 年度はシステムに係る業者との打合せ・試行を行いました。また、オンライン投稿・査読システムの導入に伴い、「CIEC 会誌投稿規定」および「執筆要項」の一部を改正致しました。

2. 2020 年活動方針

- (1) 会誌『コンピュータ&エデュケーション』49 号および 50 号を刊行します。昨年度に引き続き『コンピュータ&エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指します。また、「本の紹介」については、従来と同様に理事会メンバーの積極的な投稿をお願いします。
- (2) 本格運用を開始したオンライン投稿・査読システム Editorial Manager（会誌第 49 号（2020 年 3 月 20 日受付開始、2020 年 12 月発行）について、適宜検証を行い、必要に応じてシステムの改善を図ります。
- (3) 会誌編集委員会を年 3 回程度開催する予定です。
- (4) より質の高い論文等の投稿が増えるよう 2020PC カンファレンスで会誌編集委員会企画セミナーを開催します。「CIEC 会誌『コンピュータ&エデュケーション』に採択されるために－研究と論文の質をいかに高めるか－」パネリスト：横川博一（神戸大学）、松下慶太（関西大学）、鳴海智之（兵庫教育大学）、寺尾敦（青山学院大学）
- (5) 巻頭インタビューについては、これまでと同様に CIEC 団体会員をはじめ、団体会員外企業等にも積極的にインタビューを依頼し、CIEC への理解を深めることを目指します。また、会誌の特集に関連するテーマ・トピ

ックも考慮しながら、各種ソフトウェア・システム等を有効に活用している実績のある個人についても、インタビューの対象としていきます。

- (6) 学会賞選考委員会に会誌編集委員会として協力します。

広報・ウェブ委員会

1. 2019 年度活動報告

広報・ウェブ委員会は、CIEC の広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2019 年度は、当初に定めた 3 つ活動方針に従って、以下の通り活動しました。

(1) 会長インタビューの重視

2 ヶ月に 1 本程度の掲載頻度を維持し、計 6 本をリリースしました(2020 年 6 月現在)。各インタビューもユニークで、動画を取り入れるなどの工夫もあって反響も大きく、CIEC サイトの Special コンテンツに相応しい新企画として定着しています。今後のインタビュー相手候補者についても、委員会内で 20 人以上が推薦されています。なお、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大以降、インタビューはオンラインにて実施しています。

(2) 学会案内リーフレットの刷新

会長が二大ビジョンとして提示した「越境」および「データドリブンな学びのイノベーション」を表紙のコンセプトにしたデザインとして完成させ、全会員 5 枚ずつに配付しました。また春季研究会を拡充した CIEC 春季カンファレンス 2020 の開催に先駆け、当該リーフレットを添付した「小中高生ポスターセッション」の案内状を全国の SSH・SGH 高校約 400 校に送付し、新企画にも関わらず 20 件の応募を得る結果につながりました。

(3) 公式 SNS の運用強化

公式 Twitter は更新頻度が高く、重要ニュースを漏れなく掲載しました。公式 Facebook は「会長インタビュー」や「PC カンファレンス関連情報」のシェアに貢献しました。また本年度内に YouTube の公式アカウントも開設しました。2020PC カンファレンスに向けては、特設サイトおよび大会ポスター・リーフレット上にもハッシュタグ「#2020PCC」を大きく掲載し、SNS の運用強化を図っています。

委員会は常時 Slack 上で情報共有と意見交換を行うとともに、年會合を以下の通り開催しました。

2019 年度広報・ウェブ委員会

日 時：2020 年 3 月 20 日（金/祝）11:00-11:30

会 場：Zoom ミーティング

議 題 1. 2019 年度活動方針の進捗確認

2. 2020 年度に向けて（新委員長の承認、会長インタビュー候補者推薦など）

3. その他（PCC サイトの SSL 対応完了報告など）

2. 2020 年度活動方針

2020 年度の主な活動計画は以下の 3 点です。

(1) オンラインイベント開催のサポート

春季カンファレンス 2020 が急遽オンライン開催となったことに象徴されるように、これからはオンラインでのイベント開催も現実的な選択肢として捉えていく必要があります。単なる広報面だけでなく、企画検討から実施までに必要な知見を学会内で共有できるよう、委員を中心にサポートを行います。

(2) 学会内の業務インフラの効率化

オンラインツールのさらなる活用が求められているのは、学会内の様々な業務インフラも同じです。オンラインドキュメントの共有利用や、Slack などを使った伝達コストの低減などを、当委員会から学会全体に提案していきます。

(3) 社会的なニーズを踏まえた広報活動

前年度に引き続き Special コンテンツを中心とした広報活動をしていきます。特に遠隔教育・研究に関する知見など、社会的にタイムリーな話題を発信できるよう意識したコンテンツの企画・制作を行います。

国際活動委員会

1. 2019 年度活動報告

(1) 中国・長春における小中学校での ICT 活用視察

下記の目的および日程で海外視察の企画を立て、参加者募集を行いました。昨今の新型コロナウイルス感染症拡大を受け、視察を中止することといたしました。なお、李先生および受け入れ先のご配慮で、事態が落ち着いたのちに改めて時期は未定ですが視察することにしております。

視察目的：

CIEC 国際交流委員会では、新しい学びとコンピュータの在り方について、諸外国における ICT を活用した教育の在り方について情報収集および調査研究を行なっています。

2018 年度は米国、2017 年度は韓国への視察を行い、知見を広めてまいりました。2019 年度は、獨協大学の李凱先生が委員となり、中国の学校現場での ICT 活用教育の実際について視察する機会を得ることができました。

国際学力調査の結果や、研究力でも中国の存在感は年々高まっており、実際にどのような教育がなされているのかを見学し、現地の教師や研究者と意見交流を行うことによって、新たな知見を得ることを目的とします。なお、視察後には研究会の開催や会誌での報告などを通し、CIEC 会員へ還元することも目的とします。

視察日程：

2020 年 3 月 24 日(火)～27 日(金) (3 泊 4 日)

視察先：

- ・ 東北師範大学附属中学東案分校（小中一貫校）のコンピュータ授業、ロボットサークル、マルチメディアの応用に関する 3 時間の授業見学と交流。
- ・ 108 中学、52 中学、東盛小学校、新太小学校のうちいずれか 2 校

2. 2020 年度活動方針

2020 年度も昨年度の活動方針を引き継ぎ、次の方針に基づく活動を行います。

- (1) CIEC の目指す活動にかなう国際交流シンポジウムや研究会の開催に向けた取組活動
- (2) 日本における次世代の ICT を活用した教育を構築することを目的とした、諸外国における教育動向の情報収集ならびに調査研究
- (3) 会員の海外における情報収集の機会を支援するための支援環境構築に向けた立案企画
- (4) その他、本委員会の目標を達成するための事業の推進

研究委員会**1. 2019 年度活動報告**

研究委員会は、会員相互の研鑽と交流を目的とした研究会の企画・調整・運営を行っています。また、研究委員会が主催する春季カンファレンス（春季研究会）も定期的に開催しており、会員が研究発表を行う機会を広く提供しています。2019 年度は当初の活動方針に従って、以下の活動をしました。

- (1) 今年度企画された CIEC 研究会（第 121 回～第 122 回）について、企画・運営計画や実施状況などについて確認し、Web や ML にて告知をおこないました。
- (2) 「CIEC 春季カンファレンス 2020（オンライン発表へ変更）」を開催し、「CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol. 11」を刊行しました。概要は以下のとおりです。

会員の研究交流や相互研鑽の促進に資することを目的として 10 年間開催してきた「CIEC 春季研究会」を、今年度から「CIEC 春季カンファレンス」と名称を改め、より拡充した研究大会として企画しました。主な拡充・変更点としては、(1) 従来の査読付論文採録者による講演セッションに加え、一般および小中高生によるポスターセッションを新設したこと、(2) 査読付論文カテゴリーを精選し、論文・萌芽論文としたこと、(3) 2 日間開催としたこと、(4) 表彰（論文賞、ポスター賞、U-18 奨励賞）を新設したこと、等があげられます。

査読付論文には 24 編の投稿があり、査読の結果、論文 3 編、萌芽論文 12 編が採択されました。ポスター発表には、審査や査読付論文からのカテゴリー変更を経て、一般 9 編、小中高生 20 編が採択となりました。

しかしながら、査読論文・ポスター発表の採録が決定した直後に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の国内感染拡大・休校要請が示されたことにより現地開催の中止を余儀なくされ、急遽、希望者のみによるオンライン発表形式で縮小開催することになりました。

準備期間がほとんどない状態での試行的開催でしたが、発表者・参加者の皆さまのご協力のもと、現地開催に匹敵するほどの活発な質疑応答・議論が展開され、全体運営としてもスムーズに進行でき、大きなトラブルも無く終えることができました。この経験は、本学会としても、今後の各種イベントのオンライン開催の可能性・意義を検討する上で貴重な情報源になり得るものと考えています。

オンライン開催の概要

日程：2020 年 3 月 22 日（日）

会場：Zoom によるオンライン開催

発表件数：

- ・査読付論文発表：7 件（当日辞退 1 件を除く）
- ・ポスター発表（口頭発表形式に変更）：4 件

参加者：39 名

- ・最大同時ログイン数：32 名
- ・最小同時ログイン数：24 名

※当初開催予定の概要

日程：2020 年 3 月 21 日（土）～ 22 日（日）

会場：東京工業大学 キャンパス・イノベーションセンター東京

発表件数：

- ・査読付き論文発表：論文 3 件、萌芽論文 12 件
- ・ポスター発表：一般 9 件、小中高生 20 件

※すべて「CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol. 11」に掲載され、研究発表業績として認めます。

2. 2020 年度活動方針

- (1) 春季カンファレンスについて、以下の点を検討します。
 - ・ 会費、参加数、企業協賛等の収入見込みや論文集の電子化（印刷版をやめる）等、経費見直しにより、収支の改善を図ります。
 - ・ 電子投稿システム活用等により論文投稿に関する事務処理の効率化を図ります。
 - ・ 論文のカテゴリー・執筆要項・投稿規定等の見直しをいたします。
 - ・ 査読に関する進め方の見直しをいたします。
 - ・ 講演会、情報交換会など、新企画実施の可能性を検討します。
- (2) CIEC で実施される研究会の実施計画案などを確認・承認し、広報・ウェブ委員会と連携しながら Web や ML での周知拡大を目指します。

小中高部会

1. 2019 年度活動報告

- (1) 2019PC カンファレンス（甲南大学）において、プレカンファレンスを運営
 - テーマ：プログラミング教育必修化のグランドデザイン
 - ～小学校から中高大へバトンをどう渡すか～
- (2) 研究会（小中高部会主催 1 回、協力 1 回実施）
 - ・ CIEC 第 120 回研究会 協力
 - タイトル 総合的な探究活動をどう展開するか
 - ～Matlab を使った実験・分析・探究～
 - 開催日 2019 年 7 月 21 日（日） 13:00 - 17:00
 - 会 場 Mathworks 東京オフィス
 - 〒107-0052 東京都 港区赤坂 4-15-1 赤坂ガーデンシティ 7 階
 - ・ CIEC 第 122 回研究会
 - タイトル 主体的な学びを評価する大学入試改革
 - ～ e-Portfolio の活用への期待と現状 ～
 - 開催日 2020 年 1 月 05 日（日） 14:00 - 17:00
 - 会 場 聖徳学園 中学・高等学校
 - 〒180-8601 東京都武蔵野市境南町 2-11-8
 - 備 考 共催 オープン・エデュケーション部会
- (3) その他
 - ・ CIEC 春季カンファレンス 2020 小中高生参加協力（COVID19 により中止）

2. 2020 年度活動方針

- ・ ICT の活用と問題点

ICT は普及したといえるのか？ 新型コロナウイルスで休講措置がとられ、初等中等教育だけでなく高等教育においても、遠隔教育が実施された。遠隔教育では、プリントのダウンロードなどによる学びのサポートのほか、オンラインでの教材配信もおこなわれている。オンライン教育で可能となること、教室における対面授業でしか展開できないこと、この両者の差が浮き彫りになった。今後、ICT はどのように活用されるのがよいのか議論する。

- ・ 高大接続と学びのイノベーション
小中高部会では、コンピューショナル・シンキング（CT）からのアプローチでプログラミング的思考にフォーカスしてきた。発達段階を考慮した CT とはどのようなものかを検討し、プログラミング的思考を育む授業を CT の視点から研究している。ICT による学びのイノベーションについて考える。
- ・ 学びのデータとその分析
緊急事態宣言による休校措置によりオンラインによる授業・コンテンツ配信がおこなわれたケースが多い。独自のコンテンツを活用した場合は、学習者の活動記録データは教員のもとに存在する。それらの学習データをどのように生かせるのか、あるいは、どのような学習データが必用であったのかを、学習分析や学習方略の視点から検討する。

具体的な活動

- (1) 研究会の実施（1 件確定。他の内容は未定。東京だけでなく他道府県でも 3 回開催を検討）
 - ・ ICT は活かしたか？～全国一斉休講に ICT はどう活かしたか
 - ・ オンライン教育をリアルな教育に生かすには
 - ・ オンライン授業を対面授業に生かす～自学自修を促す学習分析
- (2) 2020PC カンファレンス（同志社大学：オンライン）への協力
- (3) 北海道地区において、PC カンファレンス北海道などに参加・協力・学習会の実施
- (4) 世話人会の実施（年 3 回、関東・関西で開催予定）
- (5) 国際活動委員会との連携
- (6) 研究委員会との連携
- (7) オープン・エデュケーション部会との連携
- (8) プロジェクトへの協力

外国語教育研究部会

休止中

生協職員部会

1. 2019 年度活動報告

- (1) 研究会／企画
8 月/PC カンファレンスセミナー3
テーマ「2020 年大学入試制度改革に向けた教育とは」
セミナー3 登壇者 内村 浩 先生
司会 興治 文子 先生

入試制度改革ワーキングに関わって来られ、ご自身も様々な教育場面に関わって来られた内村浩先生から、制度検討の背景・経過、内村先生ご自身がお考えになる課題を開陳いただき、参加者同士考えあうセミナーとなった。

本セミナーでは、大学入試制度改革についての現状を改めて知ると同時に、今後の教育がどうあるべきか、何を目標とするべきかといった本質的な議論・交流をすることのできる非常に有意義な機会となった。

- (2) 世話人会（関東世話人会計 3 回実施）
2019 年 5 月（関東・杉並） PC カンファレンス 2019 セミナー打合せ
2020 年 2 月（関東・杉並） PC カンファレンス 2020 セミナー打合せ

2020年6月（関東・杉並）PCカンファレンス2020 セミナー打合せ

新たに、メンバーを3名追加した。

2. 2020年度活動方針

- 1) アフターコロナ・ウィズコロナ時代のキャンパス内外の学び、学修環境の変容と学修者の変化を捉え、今後どのような学修支援を目指していくべきか研究する。
- 2) 学生同士の学び合いや経験を継承する場づくりの研究、現状と変化について継続的調査を行う。
- 3) 上記、1、2の活動を通じて生協職員のCIEC会員の増加につとめる。

オープン・エデュケーション研究部会

1. 2019年度活動報告

オープン・エデュケーションは高等教育機関を中心に発展し、代表的なものとしてはMOOCsや各大学が開しているOCW（Open Course Ware）が有名であるが、CIECでもここ数年、オープン・エデュケーションに関するグローバル活動の一環としてMELROTプロジェクトに参画してきました。本部会ではワークショップ・研究会・北米視察等を通じて会員にオープン・エデュケーションに関する情報等を提供・共有していくことを目的に活動しました。

(2) 研究会の実施

○ CIEC 第121回研究会

開催概要

テーマ：万人に開く教育にむけて

開催日：2019年11月24日（日） 14:00 - 16:00

会場名：大学生協杉並会館

【講演】北米における教育のデジタル化と高等教育 Faustino Hernandez 氏（UCOM inc）

【講演】MELROTとOERについて 武沢護氏（早稲田大学大学院/高等学院）

【講演】中等教育における図書館の役割とOERの可能性 伊藤正徳氏（東京・聖徳学園中学高等学校長）

【講演】英国におけるオープンユニバーシティの現状と課題 澤口隆氏（東洋大学）

○ CIEC 第122回研究会

開催概要

テーマ：主体的な学びを評価する大学入試改革 ～ e-Portfolio の活用への期待と現状 ～

開催日：2020年1月05日（日） 14:00 - 17:00

会場名：聖徳学園 中学・高等学校

【講演】e-Portfolio活用の目的と現状 ～実際の活用と課題～ 島崎綾太氏（株式会社 朝日ネット）

【講演】e-Portfolio活用の目的と現状 ～高大接続の視点から～ 江口悦弘氏（日経BP PCメディア編集部 副編集長）

(3) 海外視察

「CIEC ロサンゼルス視察ツアー」

目的：北米大学におけるOEの現状視察

平成31年9月19日～9月23日 3泊5日

参加人数：5名

California State University Dominguez Hills、Pasadena City Collegeの両校にて、図書館におけるOE・OERの活用ならび、授業でのOER利用の状況と図書館側からのサポート、州立大学の実績に基づいた政府から助成金獲得財政補助、学生が図書館運営にかかわる事の利点等、意義ある視察であった。視察をまとめたものは、『コンピュータ&エデュケーション』の特集記事として掲載予定。

2. 2020年度活動方針

「部会の組織化とその活動の活発化」

(1) 2020PCカンファレンスでの「シンポジウム」の実施

テーマ 検証「新型コロナ」休校！ そのとき学校はどう動いたかー新たな学びの場の構築と充実ー
パネリスト

- ・ CIECメンバー（小中高部会、オープン・エデュケーション部会のメンバー）

(2) 研究会の実施

(3) OER作成ワークショップの企画・運営

(4) 広報活動

広報・ウェブ委員会の協力を得てCIECホームページを積極的に活用し、情報発信を行います。

(5) その他

部会の各メンバーが海外視察など積極的な情報収集や視察を行い、情報交換します。

北海道支部

1. 2019年度活動報告

(1) PCカンファレンス北海道2019の開催

開催日：2019年10月3日（土）

会場：酪農学園大学 A1号館（実行委員長 森 夏節）

主催：PCカンファレンス北海道2019実行委員会

共催：CIEC（コンピュータ利用教育学会）、全国大学生協連合会北海道ブロック

後援：北海道教育委員会、江別市教育委員会、札幌市教育委員会、酪農学園大学

開催テーマ：AI時代の情報リテラシー

参加者数：約77名

概要：本年度は当初予定されていた北見工業大学での開催が困難になったため、急遽札幌及び札幌近郊で開催せざるを得なくなりました。酪農学園大学の森夏節先生の全面的なご協力の下、1日日程でのプログラムで開催しました。基調講演では、「AI時代の教育とは？」と題し、横濱友一氏（聖徳学園中学・高等学校 CISO/情報システムセンター長、教育ビッグデータエバンジェリスト）よりご講演いただきました。

分科会では、道外（6件）を含め16件の発表がありました。一般論文、実践論文、萌芽論文、研究速報、実践報告、北海道の地域特性を生かした実践報告等多岐に渡っており、有意義な研究交流の場となりました。

学生プレゼンテーションスキル賞優秀賞受賞者は以下の通りです。高校生の受賞は初めてです。

石井喜大（聖徳学園高等学校3年）「聖徳学園のSTEAM教育がもたらしてくれた新たな価値観」

ITフェア（企業展示）には6社の出展がありました。

(2) 大学入学生を対象にしたコンピュータに関する調査

北海道内8大学、1000名超のデータを継続的に収集しフィードバックを行っており、情報教育担当者の共通基盤として有効活動されています。

2. 2020 年度活動方針

(1) PC カンファレンス北海道 2020 の開催

開催形態、開催期日、開催会場等未定です。

(2) 支部研究会の開催

時期、会場は未定ですが、研究会の開催を予定しています。

(3) 学校の玉手箱シリーズの開催

学会員以外も気軽に参加しやすい会場での開催を予定しています。

(4) 北海道における情報教育に関する調査の実施

引き続き北海道の大学 1 年生を対象にした調査を計画しています。

九州支部

1. 2019 年度活動報告

2019 年度の九州 PC カンファレンスは、11 月 9、10 日に佐賀大学本庄キャンパスで、テーマを「令和元年、デジタルトランスフォーメーション維新」として、100 名を越える参加を得て開催された。1 日目は、「佐賀大学クリエイティブラーニング・センターの活動」の紹介の後、基調講演 1「佐賀大学との連携を中心とした企業活動について」では OPTIM の友廣一雄氏に、講演 2「肥前窯業圏におけるシェアリングエコノミー」ではナレッジネットワークの森戸裕一氏にご講演をいただいた。2 日目の分科会では 11 本の報告があった。参加者アンケートでは、基調講演について、大学と企業の連携・地方における可能性などへの驚きや共感の声が寄せられた。分科会についても、情報収集ができた、興味深い内容であったなどの感想があった。分科会のあとには、DECS 企画として、大学生協の電子書籍の利用に関する交流の場が設けられた。2019 年度九州 PC カンファレンスは、佐賀大学クリエイティブラーニング・センターの CIEC 九州支部会員達の、長年に渡る学内外での先進的活動の成果が遺憾無く発揮されたカンファレンスとなった。九州 PC カンファレンスは、大学生協の教職員活動の中から生まれ、大学生協の大きな支援を受けて維持され、発展してきたが、2019 年度も、IT フェア（1 日目）に 38 社もの出展をいただいた。

2. 2020 年度活動方針

九州 PC カンファレンスは、教員、学生、生協職員が共に学び、成長する場であり、ICT 教育や情報化社会について学ぶ場としてだけでなく、語学教育、協同組合活動、平和、地域の学校教育など、さまざまな学びの場と捉えている。2020 年度は、新型コロナへの対応のため、九州 PC カンファレンスの開催を中止するが、対面での交流が困難な事態への対応力を高めるため、TV 会議の環境を整える努力をするとともに、Slack などの活用による交流の多様化を模索する。

情報生活サポート研究会の ICT を活用した学生の学びと生活へのサポートをテーマとした研究活動では、教員、学生、生協職員の協同の中での大学生協の役割を確かなものとする活動を、継続して推進する。

資料 2 : CIEC 活動報告スケジュール

2019 年 7 月

- 1 日 (月) 2019 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 開催公示
- 14 日 (土) 監事会 (大学生協杉並会館)
- 21 日 (日) 第 120 回研究会 (小中高部会協力)
テーマ「総合的な探究活動をどう展開するか～Matlab を使った実験・分析・探究～」
(Mathworks 東京オフィス)

2019 年 8 月

- 5 日 (月) 2019PC カンファレンス第 3 回実行委員会 (甲南大学)
2018 年度第 5 回理事会 (甲南大学)
- 6 日 (火) 2019PC カンファレンス (甲南大学)
テーマ「挑む ぶつかる 乗り越える」
会誌編集委員会 (甲南大学)
- 7 日 (水) 2019PC カンファレンス (甲南大学)
2019 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 (甲南大学)
- 8 日 (木) 2019PC カンファレンス (甲南大学)

2019 年 9 月

- 19 日 (木) ～23 日 (月)
CIEC ロサンゼルス視察ツアー (オープン・エデュケーション研究部会企画)

2019 年 10 月

- 13 日 (日) 2019 年度第 1 回理事会 (午前：三役会議) (大学生協杉並会館)

2019 年 11 月

- 10 日 (日) 会誌編集委員会 (大学生協杉並会館)
- 24 日 (日) CIEC 第 121 回研究会 (オープン・エデュケーション研究部会企画)
テーマ「万人に開く教育にむけて」 (大学生協杉並会館)

2019 年 12 月

- 1 日 (日) 『コンピュータ & エデュケーション Vol. 47』発行
- 14 日 (土) 研究委員会 (大学生協杉並会館)

2020 年 1 月

- 5 (日) CIEC 第 122 回研究会 (小中高部会、オープン・エデュケーション研究部会企画)
テーマ「主体的な学びを評価する大学入試改革
～ e-Portfolio の活用への期待と現状 ～」(聖徳学園中学・高等学校)
- 26 日 (日) 2020PC カンファレンス第 1 回実行委員会 (同志社大学京田辺キャンパス)

2020 年 2 月

- 7 日 (金) 2020PC カンファレンス WEB サイトオープン
 2020PC カンファレンスイブニングセッション受付開始 (受付締切 4 月 15 日)
 2020PC カンファレンス団体会員発表セッション受付開始 (受付締切 5 月 15 日)
 2020PC カンファレンス教育・IT フェア受付開始 (受付締め切り 5 月 31 日)
- 15 日 (土) 会誌インタビュー (佐々木 千佳氏)
- 20 日 (木) 2020PC カンファレンス 分科会発表受付開始 (受付締切 4 月 30 日)

2020 年 3 月

- 20 日 (金) 2019 年度第 2 回 CIEC 理事会 (午前: 三役会議) (大学生協杉並会館・オンライン)
 2020PC カンファレンス第 2 回実行委員会 (大学生協杉並会館)
 2019 年度広報・ウェブ委員会 (オンライン)
- 22 日 (日) 春季カンファレンス (オンライン)

2020 年 4 月

- 1 日 (水) CIEC 学会賞公募開始 (4 月 30 日締切)
- 5 日 (日) 会誌編集委員会(オンライン)
- 21 日 (火) 会長インタビュー (飯吉 透氏)

2020 年 5 月

- 11 日 (月) 役員選挙公示 (6 月 15 日立候補締め切り)
- 21 日 (木) PC カンファレンスオンライン開催告知

2020 年 6 月

- 1 日 (月) 『コンピュータ&エデュケーション Vol. 48』発行
- 3 日 (水) 会長インタビュー (筒井 洋一氏)
- 21 日 (日) 2019 年度第 3 回 CIEC 理事会(午前: 三役会議) (大学生協杉並会館・オンライン)
- 30 日 (火) 2020PC カンファレンス受付開始

以上